

# 俳句と短歌の広場

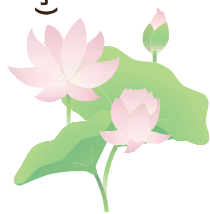
◆メナム句会は、二〇二三年六月〜八月句会(兼題:ドリアン、青鳶、蓮、夏暖簾、茉莉花、明易、他、当季雑詠)、または新作の自選一句です。

◆バンコク短歌会は、二〇二三年六月〜八月歌会(題詠・題、先)、自由題、または新作の自選一首です。

ドリアンとげの棘積み帰る薄暮かな イーブン美奈子  
鳶つた茂る戦没者碑の尖りけり 浮田恒夫  
おかえりと夏暖簾なつのれんから声がする 榎昌枝  
ツルレイシ苦瓜ゴーヤ異名あり 大竹茜子  
愛も恋も忍ばず咲けよ蓮の花 竹内元子  
ジャスミンを髪に飾りてすまし顔 山川喜美代  
裏返し蝉を返せば生きて飛ぶ 山本良子  
明易あけやすや恋の行方は謎のまま 侘助

## メナム句会のご案内

日時 第二土曜・十五時〜十七時  
場所 本館会議室&オンライン  
電話 〇九〇・九七〇・二二五六  
メール minakobar@gmail.com (イーブン美奈子)



指先の続きのやうなJのキーを原点としてけふを始める  
イーブン美奈子

先端を欠いた包丁捨てられず飾り包丁四苦八苦なり

齋藤由利子

六月の奥羽に連なる七ヶ宿蕎麦の花には白き雨降る

申人

「着いたよ」のその一言で自転車のサドルにペダルに羽の生えくる  
那須世子

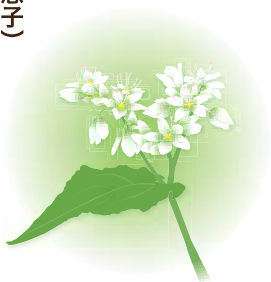
その先に見えてくるものありやなしや我が道を行く  
今駆け出しぬ  
森上美恵子

一人先に帰国する君寝入る広き背中にそつと手を当ててみる  
山本育子

マリア像は岬に佇ちて見守りぬ沖ゆく船の先の先まで  
侘助

## バンコク短歌会のご案内

日時 第四日曜・十七時〜十九時  
場所 その都度変わります。オンラインあり。  
電話 〇八九・八九二・二六八三  
メール miekobkk@gmail.com (森上美恵子)



アジアの子どもたちと若い世代のための

# White Canvas

絵画支援プロジェクト

“白いキャンバスに向かって、創造的に、  
自由に明るい未来を描いてほしい”

White Canvas project タイ代表  
Watjanasin Charuwattanakitti / 阿部恭子

White Canvasとは

White Canvas(ホワイトキャンバス)とは、東方文化支援財団のご協力の下、アジアの国々のまだ世に出ていない優れたアーティストたちを発掘し支援する取り組みです。

プロのアーティストを目指す人だけではなく子どもを含め多くの人たちに、コンテスト参加を通じて絵を描く楽しさを感じてもらい、アート鑑賞の機会を増やしていくことも狙いの一つです。

近年、欧米中心に「アート教育」や「アート思考」の重要性が指摘されていますが、アーティストだけでなく、多くの人がアートに関する感性、知識を磨くことにより、複雑な社会問題が創造的に解決されていくと考えます。

白いキャンバスに向かって、創造的に自由に明るい未来を描いてほしい。プロジェクト名「ホワイトキャンバス」には、そんな思いを

2021 Youth Gold  
Always

Supascha Bunlue (22歳)

おじいちゃんとおばあちゃんを失った経験から着想を得た作品です。彼らを思い出すために制作しました。日常生活や犬の世話などを通して、彼らが私たちと共にあることを表現しています。おじいちゃんとおばあちゃんは亡くなったものの、彼らの教えは私たちと共に息づいているという思いを作品に込めています。



2022年にバンコクのBACCでアワードを開催





込めました。プロジェクト詳細は  
動画をご覧ください（P16にQR  
コードがあります）。

### 未知のアーティストを発掘

White Canvasコンク  
ールは今年で4度目を迎え、毎年  
素晴らしい作品が集まっていま  
す。今回ご紹介する作品は2020  
年から2022年までの大人の部  
（15〜24歳）・子どもの部（7〜14歳）  
それぞれの1位入賞作品です。

昨年度は新たにBACC（バン  
コクアートカルチャーセンター）  
の会場でアワードが開催され、タ  
イの政府機関や著名な方々にご参  
加いただくことができ、次年度へ  
のさらなるステップアップが期待  
されます。2023年度はどんな  
作品がエントリされるか楽しみ  
です。このプロジェクトでさらに  
未知のアーティストが発掘され、  
アートを通して人々が幸せにな  
り、世界がよりよくなってほしい  
と思います。

White Canvasプロジ  
ェクトは、アジアのまだ埋もれて  
いるアーティストを発掘し支援し  
ていくシステムです。ご賛同いた  
だける在タイ邦人の方のご支援



BACCでのアワードに参加されたたくさんの方々

- ・には以下の方法があります。
- ・活動支援金（BACC会場費や  
作品展示費など）。
- ・作品購入・企業の皆様のコラボレ  
ーション。
- ・表彰式の商品プレゼントのご提供。
- ・White Canvas活動  
資金還元グッズの購入など。
- ・皆様からのご連絡をお待ちし  
ております（連絡先はP16）。



## 2022 Youth Gold Good Leader

**Pawich Chaisirawatch** (21歳)

選挙期間中に選挙カーが通り過ぎる様子を見て、より良いリーダーがコミュニティを活気づけ、幸福に導くとの思いから生まれたアート作品です。2人の主人公が、選挙カーと賢明なリーダーを象徴し、喜びあふれる支持者たちが彼らを応援。タイの伝統的な模様は、主人公たちの重要性と優れたリーダーのコミュニティへの影響を示しています。

(p14)



## 2021 Children Gold

### Cuteness of cats

**Rungraweeporn Choompromrat**

(13歳)

かわいいネコの親子を描きました。

(p15上)



## 2020 Youth Gold

### Bigger than Whale

**Shararat Sara-aporn** (22歳)

鯨は地球上で最大の生き物ですが、鯨は人間よりも大きくはありません。というのは、今日の人間の行動は、世界中のすべての生き物に大きな影響を及ぼしているからです。

(p15下)

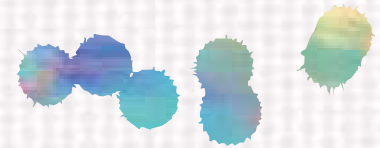


## 2022 Children Gold

# Girl saves the world

Daliya Buaket 〈9歳〉

自然を大切にする女の子を描きたいと思いました。自然破壊が進んで、森は少なくなっています。この絵は未来の地球で自然を守る女の子たちを描きました。



## 2020 Children Gold

# Grandma

Penfa Canchutiwanit 〈14歳〉

いつも応援してくれるおばあちゃんを描きました。

## information

.....  
【White Canvas projectタイ代表】  
◆Watjanasin Charuwattanakitti  
(Co-founder)  
ギャラリー&カフェPalette Artspace  
(BTSトンロー駅前)  
palette.artspace@gmail.com

◆阿部恭子  
Abekyoko.kidsart@gmail.com

※皆様からのご連絡をお待ちしております。  
ご支援よろしくお願ひします。



2020~2022年までの  
受賞者紹介



プロジェクト  
の詳細に関する  
動画





# きっかけは タイ vol.22

タイから繋がるライフストーリー



長男の4歳の誕生日の家族写真

片岡朋子さん ◆虹の学校校長

OLから国境の

孤児院兼寄宿学校に。

虹の学校で

夢をかなえる。

—どのような経緯でタイに？

大学卒業して5年ほど企業に勤めていたのですが、その間に大失恋をしまして、3日間寝込みたいな落ち込みで、そんな私が起き上がったのは、家族がサポートしてくれたからでした。手を差し伸べてくれる人がいたから立ち直れたのです。私は他力本願というか、誰かに依存して生きてきたことに思い至り、自分には何ができるのか深く考えるきっかけになりました。

希望することができて、迷わずタイを選びました。

—理由は？

OL時代に池袋（東京）のタイ料理店によく行っていて、トムヤムヌードルがおいしくて大好きでしたし、タイマッサージも好きでした。それに失恋で落ち込んでいたときに、いとこが仏教系の集まりに誘ってくれたことから仏教に興味をひかれ学んでみたいと思ったことも一因です。

—虹の学校との出会いとは？

日本語教師派遣プログラムで知り合った友人から、孤児院を訪ねるスタディーツアーに誘われて、カンチャナブリー県のサンクラブリーに行つたときに、日本人僧侶の玉城さんにお目にかかりました。玉城さんは、孤児院のオーナーが作っている竹布などをフェアトレードで支援されていたのです。ご縁ができた玉城さんに私はこう尋ねました。「どうやったら世界の人が幸せになれるでしょうか？」と。そうしたら「僕はわかるけど教えるのはやめなす」。それは自分で探すものだと言えられました。

国境の村で校長になる



上から時計回りに、稲作をはじめ農作業は大切な活動、「虹の戦士」公演、2023年1月にタイの社会開発・人間安全保障省から社会貢献賞を受賞、授業風景

## Tomoko Kataoka

1976年栃木県生まれ。慶應大学卒業。企業に5年間勤めた後、文部省の日本語教師派遣プログラムに参加して、ノンタブリー県の高校に赴任。その後バンコクの小学校で教鞭を執る。2010年、当時就学機会のなかった山岳民族の孤児や貧困家庭の子どもの教育のために創立された寄宿学校「虹の学校」の校長に就任。現在在学中の子どもは39名。ミャンマー国境付近に位置するカンチャナブリー県サンクラブリーに日本人の夫と2人の子どもとともに在住。

あるため教育を受ける機会のない子どもたちの学校を作り、そこで校長をやらないかと声をかけてくださいました。それが虹の学校です。私は即座にやりたいと答えました。自分の能力を最大限に活かすことができるし、山の中でサステナブルな生活を作っていけるのではないかと思います。

—当時の学校の様子とは？

来た当初はカレン族とモン族の子どもが5人で、先生は私1人、大工さんが2人でした。孤児院の建物は竹造りで、その竹はくさってボロボロでした。使えない状態だったので、大工さんに少しずつ施設を作ってもらって生活できるようにし、授業をするという毎日でした。

当初は私が料理をしていたのですが、私が作った料理を子ども

Q あなたにとってタイとは？

# 夢が ふくらみ つづける 場所



創立15周年記念及び結婚10周年のお祝いの日集まった生徒、先生、大工さん、親御さん、村の人たち、スタディーツアー参加の日本人の方々。2023年3月

もたちは食べなくて、残ったものを一人で食べていました。大工さんが作ると食べるんですよ。悲しくてバナナ畑で泣いていました。ネットでスタッフを募集すると、世捨て人のような人たちが集まってきましたが、献身的に働いてくれる先生たちにも恵まれて、2014年には学習センターとして登録。タイ教育省の初等教育課程に沿った授業を行い、カリキュラムを終了すると修了証を受け取れるようになりました。国籍がなくても初等教育の修了証をもらえるのです。卒業後は虹の学校の寄宿舎から近くの中学に通って、高校に進学する子もいます。問題は、虹の学校の子たちは学力が高いのに、周辺の中学のレベルが低いので学力が落ちてしまうこと。それで虹の学校で補修授業をすることにしています。

## 大家族

—ご家族のことをお聞かせください。

夫と2人の息子がいます。現在の場所に移転する前に、高知工科大学の先生に虹の学校のシンボルとなる土囊の建物を建てていただいたときに、建築家である(後の)夫が現場責任者として常駐することになり、知り合って3カ月で結婚しました。彼は来て間もなくから、真っ暗闇のなかで一口お酒を飲んで体を温めて川に飛び込んで魚を獲ってくるような、生活の知恵と

卓抜した技術のある大工さんたちを尊敬していて、そういう人なら共に生きていけると思えました。9歳と7歳の息子は虹の学校で学んでいます。

—タイ語での授業ですすよね？

そうです。英語や算数などの授業は私も教えているし、お父さんは学校の建物を建設していて間近にいたので安心です。豊かな自然の中でのびのびと育ち、寄宿舎の子どもや大工さん、先生方と大家族のように暮らすことができて、ここで育てることが一番の幸せだと思っています。

—これからの夢は？

虹の学校は今、小学校課程のカリキュラムですが、いずれ中学校、大学レベルの教育機関も作っていきたくと考えています。サンクラブリーに意味のある高等教育機関ができて、そこで教育を受けた人たちが先生になれば、各地の学校に送り出すことができます。アートセンターとしても機能させたいですね。虹の学校ではミュージカル教育も活発で『虹の戦士』というオリジナル作品を何度も上演しています。

世界が平和になればいいという気持ちは中学高校の頃から持っていました。その頃は実際には自分ごとではありませんでしたが、それを形にする方法が虹の学校だったのです。私は虹の学校で夢をかなえています。

—ありがとうございました。



里親・寄付



YouTube



インスタ



FB



HP

虹の学校の詳細、活動報告、里親、ご寄付は右記サイトをご覧ください。





# 聞き書き バンコク生活70年

## 私がタイに嫁いだ頃

故小谷久子さん

小谷久子（こたに・ひさこ）さんは1930年兵庫県出身。女学校卒業後に川崎汽船に勤務。戦前から日本の会社の駐在員であった小谷亀太郎氏と結婚し、1953年に渡タイ。本稿は、長きにわたるタイ生活に終符を打つことになり、本帰国を控えた昨年6月24日に、日本人会本館でうかがった話をまとめたものです。小谷久子さんは2023年5月4日に逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。



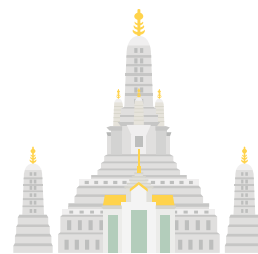
日本人会本館一般図書館で 2022年6月24日撮影

### 昭和28年、渡タイ

——タイに来たのは1953年です。戦前からいらした日本人のみなさんは、戦後引き上げられたでしょ。また入国できるようになったのですけれど、商社の方はまだ来れなかったから、一般人では私が初めてのほうではなかったかと思うの。大使館関係者以外ではね。羽田から飛行機に乗って、沖繩経由でここに来たんす。給油のために寄った沖繩の飛行場で食べたアイスクリームのおいしかったこと！機内でおトイレに行って、ドアを開けたところまでは覚えてるんですけど、気を失ってしまつて。操縦室の両側がトイレだったんです。が、間違えて操縦室のドアを開けたらしくて、そこで意識不明になったので大変だということ。タイに着くまでずっと酸素吸入。生まれて初めての飛行機で、気圧の変化にも慣れてなかったせいでしょね。

### 結婚

——主人は戦前から駐在員としてタイにいて、繊維会社で貿易の仕事をしていました。日本で生産したサロン用のコットンを、パフプラットあ



たりに卸していたんです。戦後に進駐軍が入ってきたとき、そのなかの二世の方がたまたまお友達で、バンコクに残りたいなら残してあげるよと言われたそうなんです。日本にはもう両親もいないし焼け野原だし、帰っても仕方ないからと残る許可をもらったそうです。

敗戦後、一般の在留邦人はノンタブリー県のバーンブアトーンキャンブに抑留され、大多数はその後、日本に送還された。戦後も引き続き在留できる許可を得た日本人は126名といわれる。

——主人とはお見合いなの。私、女学校を出たあと、川崎汽船に勤めてたんです。同僚の鈴木さんという方のお父さんが戦前にタイに駐在してらして、終戦後は治安が悪かったのうちの主人に白羽の矢を立てて、一緒に住んでいたんです。主人がお嫁さんを探すことになったんですけど、なかなか決まらないんです。鈴木さんも自分も一緒に住むわけですから、へんな人が来たら困るわけですよ。そんなことで鈴木さんの息子さんと同僚だった私に声がかかったんです。バンコクに行くから「ダンス、長持（ながもち）いらないよ」って。それにのっかったわけ。

主人が日本に仕事で来たときに会って、結婚することになって、日本でタイの永住権を取ってきたんですが、永住権の手続きは籍を入れないとできないので、まだ結婚してないのに籍だけ入れたんです。

その後、主人はタイで盲腸炎になって死にそうなる目に遭ったんです。私は入籍してはいたけれど日本にいて、結婚はしてないわけですよ。それでうちの親はこれで何かあったら結婚もしてないのに未亡人になるって心配してね。本当に大変でした。父は新聞記者で特派員として海外にも行ってましたし、ひらけた人だったので、結婚に反対はしませんでしたが、母はタイに行くことに反対でした。私は興味津々で、行ってダメなら戻ればいいわと思ってきました。知らない国に行ってみたかったんです。

### 住まいとアヤさん

——家は当時としては珍しくスクムビットだったの。エムクオーティエがあるでしょ。まさしくあのなかでした。ひろいお庭のある家でね、プププと鳴らすと庭師が走って門を開けにいくんす。母家があつて、お台所もアヤさんの部屋も別棟。そういう造りの大きな家です。

使用人は、庭師、運転手、コックさん、お掃除婦、洗濯婦ですから最低5人は雇わなければなりません。

私が来たときには、使用人はみな中国人でした。彼らはプロよね。コックさんはお客さんのお料理なんかもバーっとできる。アヤさんは広東出身が多くて、だいたい独身でね、髪の毛を長くしてひとつの三つ編みにしてた



らしてるの。あなたたち年いったらどうするのって聞いたら、ヤワラー（チャイナタウンエリア）のサンペン市場のあたりに、私たちの老人ホームがあるって言ってましたね。

コックなら料理、掃除婦なら掃除だけして他のことはしないので仕事は完璧。子どもが一人できることに、子守りが加わっていくの。王族の生活をしましたよ（笑）。その人たちがだんだん年を取って働けなくなつて、タイの人がくるようになりました。でもね、タイの人はすぐに昼寝するのよ。

子どもができるまでは退屈でした。靴でも磨こうものなら、あの奥さん日本で靴磨きしてたんだと言われるから、しちゃいけないんです。テレビもないし、何してたのかと思えますよ、ほんとに。